

国土の長期展望に係る意見交換会 概要

1. 日 時

令和3年3月11日（木）13:30～15:00

2. 会議形式

WEB 会議

3. 出席委員

国土交通省国土政策局担当者：総務課吉岡企画専門官、総合計画課的場課長補佐
東京大学工学部都市工学科学生3名
東洋大学国際観光学部国際観光学科学生3名
長崎大学環境科学部環境科学科学生4名

4. 議 事

国土交通省より東京一極集中の現状等について説明した後、各大学よりプレゼンテーションを行った。その後、東京一極集中について国土交通省担当者と各大学の学生とで意見交換を実施した。主な意見・質疑は以下の通り。

<国土交通省からの情報提供：東京一極集中の現状と課題について>

【東京大学Aさん】 パソナグループなどテレワークにスムーズに移行できた企業がある一方で、東京の企業でもテレワークにシフトできず取り残される企業もあると思う。全ての企業がテレワーク移行の足並みを揃えないと東京一極集中是正には不十分ではないか。

また、遠方に本社が移転したとしても、これまで通りオンラインなどを使って東京に影響を与え続けることができるのか。

【国土交通省：吉岡企画専門官】 企業にも様々な業態があるため、全ての企業が足並みを揃えてテレワークに移行するとは想定し難い。テレワークの方が生産性が高いと判断した企業から定着していくと思う。少なくとも、今回、新型コロナ対応の必要性からテレワーク導入が進み、結果的にテレワークのメリットを感じたケースがあるのは事実。その上で、テレワークにより遠方からでも働けるという働き方を実現したり、本社移転したりするなかで、企業と働く人にとってより良い価値を提供している企業が選択されていくのだと思う。

パソナグループへのヒアリングでは、空港が近く、海外にアクセスしやすくなったといった話もあった。パソナの場合は本社機能の一部を東京に残す事になるが、対面に加えてリモートという選択肢が増えるということが重要だと思う。

テレワークは一極集中の是正につながる様々な要素の一つと考えるが、ノウハウや資金の問題でテレワークを導入できない中小企業や、インフラ環境が不十分な地方等があれば、そ

れをサポートすることで、企業の選択肢を広げる手助けができるのではないか。

<3 大学によるプレゼンテーションを踏まえた意見交換>

【国土交通省：吉岡企画専門官】 東京大学のプレゼンテーションの論点にオンライン空間とオフライン空間との優位性の大小関係が変わることについて示唆があったが、どのような技術があればオンライン空間とオフライン空間の差がどれくらい縮まるか、または逆転すると思うか。もしくは実際に今、オンラインの優位性に影響を与えるような便利なツール等があるということであれば教えていただきたい。

【東京大学Bさん】 デジタル空間と都市の関わりについて、研究やディスカッションをしている中で感じたのは、オンライン空間がリアル空間を代替するのは難しいということ。その理由としてリアル空間では個々の完結した空間だけではなく、例えば家から学校まで行く場合、駅まで歩き電車に乗って大学に行くが、オンラインだといきなり授業する場所に飛ぶことになる。空間の不連続性がリアル空間とオンライン空間の大きな違いだと思う。具体的な問題として出ているのがクラブハウス。ニュースにもなり始めているが、カルト系の勧誘の場にされてしまっているとも言われている。これはその部屋に入る人を誰も見ていないという空間の不連続性があまり良くない活動を助長する場になっているのではないかと思う。

【東京大学Cさん】 オンラインにメリットがある一方で、デメリットもかなりあると思っている。その中で一番課題だと思うのは合意形成の部分。例えば、対面だと意見を言った時の雰囲気や周囲の反応によって、自分の意見がどれくらい受け入れられているのかが分かる部分がかかなりある。一方でオンラインになると、例えば頷きがあっても分かっている頷きかどうかがかかなり分かりにくい。雰囲気が分かるというのはリアルな状況でない今の段階では難しいと感じている。

【東京大学Aさん】 オンラインの良さもあると考えている。今回、オンラインを使い慣れていく中で、オンラインが元々有していた機能を発掘することができた。クラブハウスも最近出てきたもので、その良さがこれから追求されていくのではないかと思う。またオンライン空間は不連続で、空間の広さそのものにバリエーションがあると思っている。そういったオンライン空間の広さや機能について新しく気づくことができれば、オンラインならではの機能やメリットはこれからどんどん見つけられていくのではないか。

【国土交通省：的場課長補佐】 今回、長崎大学の皆さんが地方圏の大学に在学ということになるが、今後の就職先等として、九州内を希望しているのか、それとも東京を希望しているのかなど、差し支えない範囲で意識を伺いたい。

【長崎大学Aさん】 今回の意見交換会に参加させていただいている4人の中で就職希望地の変化について話したが、4人中3人はもともと九州内で就職をする予定、残りの1人は東

京を希望していたが、コロナの影響もあって、今は九州内を考えているとのことだった。周囲でも就職地を九州にしようかと考えている人が多いので、コロナにより多少なりとも意識の変化はあると感じた。

【長崎大学Bさん】 就職先を考える上で、東京や大阪などは企業が多く、便利な都会の方が良いと考えていた。ただ、コロナ禍で家族と一緒に過ごす時間も増える中で、家族の近くに住みたいと考えるようになり、今は九州内での就職を考えている。企業の説明会話を聞いていても、コロナ禍でテレワークに切り替えた企業も多かったので、都会に行かなくても他の地域でも自分のしたい生活ができるのではないかと意識が変わった。

【国土交通省：的場課長補佐】 反対に、東京にキャンパスがある大学の皆さんのうち、地方を就職先に考えている方はいるか。

【東京大学Cさん】 東京での就職が念頭にあるが、地方出向ができる会社が良いと考えている。全国を行き来できるような生活ができるのが一番の理想だと考えている。東京に縛られているというよりは地方も見てみたいと感じている。

【東洋大学Aさん】 私が就活の軸として大事にしているのは複数拠点での活動ができる会社。東京の会社には拘らないが、地方でも1つの拠点で従事するというよりは複数拠点を経験したいと思っている。

【東京大学Bさん】 元々東京の近くに住んでいるので、地元で就職するか、東京で就職するかという考え方にあまりならない。東京で就職したいというよりは、自分のやりたいことができる場所で働きたいと思っている。自分が望む暮らしができるということが重要で、もしかしたら働く場所というよりは仕事の内容が大事でたまたま相応の仕事がしたいと思えるような仕事が東京に多かったので、東京に人が集まってきたのではないかと話を聞いて思った。

【東洋大学Bさん】 コロナ以前は説明会など対面が多く、地方に行くのに手間もかかっていたこともあり東京での就職を考えていたが、コロナ禍になりその活動がオンラインになってきたので、逆に地方の企業も知ることができ、やりたいことと照らし合わせて見ることができるようになったので、東京以外にも幅を広げるようになった。

【国土交通省：吉岡企画専門官】 国土交通省の発表資料の中に、地方移住の関心が高まっているという資料を紹介させていただいたが、皆さんの地方移住についての肌感覚を教えてください。

【東京大学Bさん】 生まれの秋田県にアイデンティティがあり、大学卒業後、最終的には

秋田県のような地域で過ごしたいと思っていた。ただ、色々な話を聞いて気になるのが、受け入れ側の人の意識。コロナの流行で来てほしくないと考えているところもあると思われ、行っていいものなのかと個人的に心配している。

【東京大学Aさん】 私は移住できるならしたいと考えている。大学のプログラムで移住促進のための取組を検討している。地方は若者の流出が激しいこともあるが、富山県でヒアリングをしたところ、地域に若者が戻ってくる、あるいは新しく来てくれるだけで、地域の人と会話している状況が生まれ、街のにぎわいにつながるので、どんどん来てほしいという話を伺った。コロナによって受け入れ側に東京からの移住に否定的な意見はあると思うが、一過性なものだと思う。地方に賑わいを取り戻すという観点からも若者の移住が進めばいいと思う。

【東京大学Cさん】 最近、就職活動をしている中では、周りの友人が移住をしたいとか、地方で勤務したいといった話はほとんど聞かない。肌感覚として、若者の移住が進んでいるとは感じられない。一方で、中途採用や転職を考えている人の意識は新卒とは違う可能性もある。移住に関心はあっても、具体的に移住先を決めるのかというところでかなり迷う部分があると思う。移住先の決断材料がなく、難しいと感じている。

【国土交通省：的場課長補佐】 私個人としても移住には興味はあり、懇談会等で色々な人に話を伺ったり、リモートワークと移住についての調査にも携わらせていただいたりもしたが、いざ自分が移住するか、となるとなかなか難しいと感じてしまうのが正直なところ。ただ、職業やライフスタイルによってフットワークが軽い方たちもいるので、そういった一定の層に移住の考え方が響いていき、更には東京大学の質問にもあったように社会全体で取り組んでいくといったことが重要になるのかもしれない。

終了予定時刻を過ぎているが、その他ご発言あれば。

【東京大学Aさん】 東洋大学の発表にもあったが、観光という観点による東京一極集中は面白いと感じている。東京に観光に来る人はたくさんいる一方で、全体の観光のトレンドとしてはモノ消費よりもコト消費ということを踏まえると、東京のどういうところに惹かれて東京に向かっていく人が増えているのかという点で、若干トレンドと外れている点があると思っている。東京の雰囲気的なものなのか、具体的なモノ、例えば浅草などを見たいというところで観光客が増えているのか、大学内での議論にもなってしまうが、いつかお話できればと思う。

【国土交通省：吉岡企画専門官】 長崎大学の皆さんは全員、複数回旅行で東京を訪れたという話があったが、地方から旅行で東京に来たいと思うのはなぜか教えてほしい。

【長崎大学Aさん】 修学旅行や高校の卒業旅行で東京を訪れた。高校の卒業旅行では海外

を選ぶことはなく、国内でどこに行くかを考えると、東京への憧れと有名な観光地が多いという点で東京を選んだ。

【長崎大学Cさん】 東京に行く機会としては、修学旅行のほか、テーマパークやアーティストのコンサートなど、地方にはない施設やイベントが多いという点がきっかけになると思う。

【国土交通省：的場課長補佐】 東洋大学の発表にもあったマイクロツーリズムは、自分の地元の少し離れたところでの魅力を再発見する機会にもなる、という見方もできると思った。

【国土交通省：吉岡企画専門官】 それぞれの大学に興味深い発表いただき感謝する。ディスカッションにおいては、特に今後のテレワークのメリット・デメリットが変わっていく可能性については大変示唆に富んでいた。また、移住の方向性や就職先については、一部本当に考え方が変化してきているという潮流を肌で感じる事ができた。

一方、移住と言ってもどこに行ったら良いか分からないという指摘は重要。観光の観点でもやはり東京は目立つランドマークはたくさんあるが、地方にそういった場所が本当はないのかと考えるとそうではない気もしており、地方にも人を呼べる観光資源があるのではないかと考えている。東洋大学の発表にもあったように観光をきっかけに関係人口や移住につなげていくことができれば、観光庁を擁する国土交通省としては非常に嬉しいことだと思う。短い時間だったが、有意義な議論になったと思う。本日は誠にありがとうございました。

以 上